

## 総括

[目的] 地域に根差した産業を核とした産業の集積（クラスター）を推進  
 （一次産業から三次産業までの多様な仕事を創出＋地域の経済波及効果）

### [成果]

- (1) これまでのプロジェクトの取り組みを通じて、クラスターの核となる一次産業では一定の基盤整備が整い、生産拡大や雇用の創出が図られてきた。
- (2) 二次、三次産業の展開が進み、新たな加工品の開発や飲食店でのメニュー化等が進み、観光振興につながったプロジェクトも生まれている。

### [課題]

- (1) 二次、三次産業については、一次産業からの展開が十分ではなく大きな広がりにつながっていないプロジェクトがあるなど、各地域の資源を生かした六次産業化の取り組みにとどまっているものが多い。
- (2) 制度開始から約8年が経過し、プロジェクトを取り巻く環境の変化により、加工用青果の調達難や原魚不足等、当初想定との乖離も発生してきている。このため、今後の取り組みの推進に当たっては、それぞれのプロジェクトの進捗や課題、取り組み内容に応じた支援方法の見直しが必要。

## 今後の方向性

- (1) 「地域産業クラスタープロジェクト」としての位置づけは見直し、引き続き一次産業から三次産業までの多様な仕事の創出に取り組むものについては、地域アクションプランの下で一体的に推進する。
- (2) プロジェクトの取り組みが軌道に乗っているものについては、自立を検討する。
- (3) 一次産業から二次・三次産業への展開が見込めないなど、クラスターの形成が困難なものについては、取り組み内容の見直しを行う。

## 地域産業クラスタープロジェクトの展開

分野	地域	クラスタープロジェクト（CP）名	主な指標と評価			
			一次	二次	三次	
農業	安芸	①日本一のナス産地拡大CP	出荷量 S	加工品開発数 A	—	
		物部川	②南国市農業CP（ニラ、シシトウ、ピーマン類、還元野菜）	生産量 B	新商品数 D	—
			③日本一のニラ産地拡大CP	販売額 B	—	イベント日数 S
	嶺北	④嶺北畜産CP（土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏）	あかうし販売額 S	—	さめうら荘利用者 D	
		⑤本山町施設園芸生産拡大CP（パプリカ）	出荷量 A	—	交流人口拡大 S	
	仁淀川	⑥日高村トマト産地拡大CP	販売額 B	商品開発件数 B	オムライス販売数 B	
		⑦いの町生姜生産・販売拡大CP	出荷量 S	加工品開発数 S	—	
	高幡	⑧四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化CP	販売額 C	加工品売上額 —	—	
		⑨四万十のうまい豚CP	出荷頭数 C	加工品売上額 S	—	
		⑩四万十のうまい栗・芋CP	JA乗集荷量 B	加工品売上額 S	—	
		⑪くろしおミョウガ生産拡大CP	出荷量 A	—	メニュー定番化 S	
幡多	⑫宿毛市イチゴ・柑橘成長CP	イチゴ販売額 A	—	加工品等開発 S		
林業	嶺北	①嶺北林業CP	素材生産量 B	加工品売上額 D	研修宿泊者数 D	
水産業	幡多	①宿毛・大月養殖ビジネス高度化CP	マダイ生産 S	加工品出荷額 B	観光入込客数 D	
		②土佐清水メジカ産業CP	漁獲量 D	宗田節出荷数 C	観光入込客数 B	
その他	高知市	①竹資源活用CP	売上額 —	加工品売上額 D	—	
	仁淀川	②仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業CP	農業従事者数 A	端材活用量 A	入込客数 —	



※「評価」は、代表的な数値目標に対する達成見込み。評価基準は地域アクションプラン（資料2-3）と同じ。

## 【農業】 日本一のナス産地拡大クラスタープロジェクト

県東部の基幹品目であるナスの生産拡大を目指して、新技術の定着や担い手対策を進める。また、ナスの機能性表示を生かした青果販売や新たな加工品の開発・販売及び地元飲食店等での利用促進に取り組み、クラスターの形成を図る。

地域:安芸市

実施主体:安芸市、(株)アグリード土佐あき(JA出資法人)、就農サポートハウス(安芸市、JA)、安芸市担い手支援協議会、JA高知県安芸地区アグリサポート、ゆめファーム全農NEXTこうち、JA高知県(安芸地区)、JA高知県安芸地区安芸集出荷場、道の駅大山、(一社)高知県東部観光協議会、(一社)安芸市観光協会、安芸商工会議所、JA高知県安芸地区園芸研究会安芸支部、安芸市施設園芸品消費拡大委員会、(一社)こうち絆ファーム

取り組みの内容

- ・環境制御技術の向上、病害対策の徹底
- ・新規就農者の確保と、早期経営安定に向けた支援
- ・ナスを使った新規加工品の開発・販売支援
- ・スタンプラリー等の消費拡大イベントの開催、PR動画の作成などの販売促進活動

主な成果

- ・出荷量(年間) R元 : 5,310t → R4 : 6,020t
- ・新規就農者数(年間) R元 : 6人 → R4 : 5人
- ・新規加工品開発数(累計) H29~R元 : 2件 → R2~4 : 2件

今後の方向性

- ・データ駆動型農業の実践強化による産地の底上げ
- ・新規就農者の早期経営安定に向けた支援
- ・ナス加工品の開発・販売、消費拡大に向けた活動の支援

